

「香港中文大学サマースクールプログラム（中国語コース）参加報告書」

京都大学経営管理教育学部・修士課程1年 勝村良裕

① 学習成果（今回の派遣に参加する前とした後とで、留学、大学での学習、国際理解への意欲に関して、自分にどのような変化が起きたか、今回の派遣に参加して、次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったかなど）

これまで中国語は自身で学習し、初歩的な理解はできていたと思っていたが、従前より体系だったクラスで授業を受けてみたいとの考えがあり、今回はそのまたとない機会であった。今回、3週間の短い期間であったが、基本的な中国語の理解は進んだと自認しており、一層中国語に対する興味が湧いてきたといえる。また、本学とは異なるアプローチの授業、すなわち、より積極的な学生の参加を促す授業を体験できたこともいい経験となった。さらに、異文化交流の観点でも、日本とは異なる考え方のものの見方に気づかされることが多く勉強になった。

留学等で環境が変化することはストレスにもなるが、逆に言えば、自分のこれまでとは異なる一面を発見し、伸ばす絶好の機会といえる。今後も、時期が許せば留学し、今度はもう一段上の中国語の学習または、世界共通言語である英語をベースにした学習等を考えてみたい。

② 海外での経験

自身はこれまで本学入学以前に2年半同じ中華圏といえるシンガポールで勤務の経験があり、また、海外はこれまで30ヶ国以上訪れていることから、海外旅行ということで特別の意識はかった。ただ、学生という立場で勉強を目的に海外に出ることは初めてであり、その点においては自身にとって新たな体験であった。

言語については、香港返還前の歴史からこれまで英語が母国語と認識していたが、今回の渡航で広東語が母国語と初めて知った。確かに街中では聞きなれない中国語を耳にすることが一般であった。しかし、学内はもちろんのこと、（数多くトライした訳ではないが）街中でも簡単な普通語なら事足りることも何度かあり、初級クラスの自分にとっては、街中でも勉強の機会を十分見つけることができた。

香港で感心したのは、やはり英語力の高さである。香港ポストによると、香港人の英語能力は日本人より下（『香港ポスト』2012.12.7*）との報道もある。しかし、さすがに幼稚園から英語の学習を行っているだけあって、日本人より勝っているとしか思えなかった。

どんなに海外に慣れていても、新たな気づきを得られる機会が大きい海外での生活は、自身にとってはやはり魅力的である。

③ プログラム内容

授業は月曜から金曜まで毎日、午前2時間45分、午後1時間45分の合計4時間半が費やされた。自身が振り分けられたクラスは1Upper（4つのランクのうち上から3番目）であり、メンバーは合計15名。うち日本人は11名であった。プログラムはStructure&Reading授業とSpeaking授業によって構成され、それぞれ別の先生が担当した。また、それらの授業は一日ごと交互に実施された。

Structure&Reading授業は、単語習得、基礎構文理解およびテキスト音読を中心にしたものであった。宿題は毎回、新出単語の書き取りが課されたが、この課題は日本人にとっては、さして難しいものではなかった。授業は基本的な内容ながら、学生一人ひとりに音読を求め、質問する等インタラクティブな構成であった。

Speaking授業は、テキスト本文の学習を行ったほか、発信力を磨く内容が多かった。具体的には、4コマ漫画の台詞を自由に考え発表するもの、過去の一日を時間ごとに区切って何をしたか発表するもの、友人に対して香港の案内をするロールプレイング等である。さらに、中国語の歌によるカラオケ大会、校外に出たの飲茶の食事会等、学生の参加意欲を高める工夫もされていた。

④ 進路への影響

自身は社会人の経験を経て、この4月に本学に入学したばかりであり、まだ卒業後の方向を決定していない。よって、今のところ、今回の経験が直接的に進路に影響を与えるとは考えていない。

しかし、今後も巨大な人口を有する中国の存在感は大きいと推察され、その意味では、どのような進路を選択しても、中国語を利用する機会は大いと考えている。例えば、社会人からの本学入学である自分にとっては、独立も一つの有力な選択肢であるが、その場合でも、今回の学習は対象顧客の幅を中国の人にも広げうる起点として大きな意義があったと認識する。

以上

(参考資料)

*「香港人は英語が得意か？」『香港ポスト』2012年12月7日、(<http://www.hkpost.com.hk/index2.php?id=4971>)